PowerShell コマンド操作ガイド

Arcserve Replication/High Availability

バージョン 18.0

arcserve®

リーガル ノーティス

組み込みのヘルプ システムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント (以下「本書」) はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve により随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は Arcserve が知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは (i) 本書に関連する Arcserve ソフトウェアの使用について、Arcserve とユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または (ii) ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品 (複数の場合あり) のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただし Arcserve のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCSERVE は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害 (直接損害か間接損害かを問いません) が発生しても、ARCSERVE はお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCSERVE がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供 : アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Section 12.212、52.227-14、52.227-19(c)(1) - (2)、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)、またはこれらの後継の条項で規定されている該当する制限に従うものとします。

© 2020 Arcserve(その関連会社および子会社を含む) 。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者に帰属します。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® High Availability(HA)
- Arcserve® Replication
- Arcserve® Assured Recovery®
- Arcserve® Content Distribution

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

https://www.arcserve.com/support

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

製品ドキュメントに関するフィードバックの提供

Arcserve 製品ドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、こちらまでお問い合わせください。

目次

第1章: 使用方法 9
このガイドについて 10
関連ドキュメント 11
Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明 12
PowerShell の概念 13
PowerShell Cmdlet 14
オブジェクト パイプライン 15
Arcserve RHA PowerShell のインストール 16
Arcserve RHA PowerShell の実行 17
ヘルプの使用 19
コマンド出力のフォーマット 20
第2章: Arcserve RHA PowerShell コマンドの使用 21
接続コマンドおよび登録コマンド 22
Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続 23
スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続 25
Disconnect - XO - 実行中のコントロール サービスからの接続解除 26
Get-License - Arcserve RHA ライセンスの表示 27
Set-License - 登録 Arcserve RHA 28
xo-import-credential 29
xo-convertto-securefile 30
xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換 31
Add-Credential - 認証情報をホストに追加します 32
Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します 33
Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します 34
制御コマンド 35
Diff-Scenario - 相違点レポートの生成 36
Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート 37
Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート 38
Mount-Snapshot - スナップショットのマウント 39
Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備 40
Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復 41
Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの再開 43
Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開 44
Run-Scenario - シナリオの開始 45

Run-Assessment - アセスメント モードでのシナリオの実行 46
Set-Bookmark - リワインド ブックマークの設定 47
Stop-Scenario - シナリオの停止 48
Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの一時停止 49
Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止 50
Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行 51
Sync-Scenario - 同期の開始 52
Test-Integrity - アシュアード リカバリの整合性テストの実行 53
Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除 55
編集コマンド 56
Add-Appliance - フル システム シナリオ用のアプライアンスの指定 57
Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加 59
Add-Group - シナリオ グループの作成 60
Add-Master - シナリオへのマスタ ホストの追加 61
Add-Replica - シナリオへのレプリカ ホストの追加 62
Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカ ホストの追加 63
Add-Scenario - 新規シナリオの作成 64
Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除 66
Remove-Group - シナリオ グループの削除 67
Remove-Replica - シナリオからのレプリカ ホストの削除 68
Remove-Scenario - シナリオの削除 69
Rename-Group - シナリオ グループの名前の変更 70
Rename-Scenario - シナリオ名の変更 71
実行中にシナリオを変更するコマンド 72
Apply-AllPendingRuntmeChangeableScenarioProperties 73
Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties 74
Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties 75
Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties 76
Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties 77
Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties 78
Get-RuntimeChangeableScenarioProperties 79
Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties 80
Set-RuntimeChangeableScenarioProperty 81
Test-RuntimeChangeableScenarioProperty 82
モニタリング コマンド 83
Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示 84

Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示 85
Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示 86
Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示 87
Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワークアダプタの取得 88
Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示 89
Get-Snapshot - レプリカホストの VSS スナップショットを表示 90
Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示 91
Get-Stats - シナリオの統計情報を表示 92
ユーザ管理コマンド 93
Clean-VMResource – 仮想プラットフォーム上の VM リソースの消去 94
Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネットワークアダプタのマップ 95
Get-SuperUserGroup - スーパーユーザグループ名の表示 97
Set-SuperUserGroup - スーパーユーザグループの変更 98
Get-Users - スーパーユーザグループのすべてのユーザの一覧表示 99
Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示 100
Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て 101
Remove-ScenarioUser - シナリオに対するユーザの権限のキャンセル 102
索引 103
索引 105

第1章: 使用方法

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

このガイドについて 10
関連ドキュメント 11
Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明 12
PowerShell の概念 13
Arcserve RHA PowerShell のインストール 16
Arcserve RHA PowerShell の実行 17
ヘルプの使用 19
コマンド出力のフォーマット 20

このガイドについて

このマニュアルには Arcserve RHA PowerShell コマンドの実行および活用に必要なあらゆる情報が含まれています。このマニュアルでは、Windows PowerShell の概要、Arcserve RHA PowerShell の各コマンドについて説明し、これらのコマンドを使用して、DR および HA プロセスを制御、編集、モニタする手順と例を紹介します。

関連ドキュメント

このマニュアルは、「*Arcserve RHA インストールガイド*」および「*Arcserve RHA 管理者ガイド*」と併せてお読みください。Arcserve RHA 18.0 マニュアルのリンクについては、以下を参照してください。

- マニュアル選択メニュー
- リリースノート

Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明

Arcserve RHA PowerShell は、Arcserve RHA マネージャのグラフィック ユーザ インターフェース(GUI) を使用したレプリケーション プロセスを管理するための代替手段または補足手段として、ユーザに提供されています。パワーシェルは、以前のバージョンで提供されていた WS CLI の機能を拡張し、より使いやすくしたものです。また、DR と HA の両方の処理がサポートされています。

Windows PowerShell™ は、システム管理者専用に設計された新しい Windows コマンド ライン シェルおよびスクリプト環境です。このシェルには単独または組み合わせて使用できる対話型プロンプトおよびスクリプト環境が含まれています。テキストを受け取って返す通常のシェルとは異なり、Windows PowerShell は .NET 共通言語ランタイム(CLR) および .NET フレームワーク上に構築されていて、.NET オブジェクトを受け取って返します。

Windows PowerShell™ には、一貫性のあるインターフェースを使用した、包括的な組み込みコマンド セットが用意されています。Arcserve RHA PowerShell は標準の Windows PowerShell™ をベースに、スナップインと呼ばれる多数のシナリオ関連コマンドが追加されています。このガイドでは、レプリケーション シナリオの設定、レプリケーションとスイッチオーバーの処理の制御およびモニタを可能にするこれらのスナップインについて説明しています。Arcserve RHA PowerShell コマンドで管理するすべてのシナリオの表示や操作は、Arcserve RHA マネージャで管理するシナリオと同じです。デフォルトの自動保存場所も同じ(*INSTALL_DIR/ws_scenarios*) です。

PowerShell の概念

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- PowerShell Cmdlet
- オブジェクト パイプライン

PowerShell Cmdlet

Windows PowerShell では、cmdlet(「command-let」) の概念を導入しています。cmdlet は、オブジェクトの操作を目的とする、シェルに構築された単純で単機能のコマンドライン ツールです。cmdlet は名前形式で識別することができます。たとえば、Get-Help、Get-State、Run-Scenario など、動詞と名詞がダッシュ(-) で区切られています。動詞は Windows PowerShell の特定のアクションを示し、名詞は特定のオブジェクトのタイプを示します。

Windows PowerShell では、ほとんどの cmdlet の機能は非常に単純で、他の cmdlet と組み合わせて使用されるように設計されています。たとえば、それぞれ、「get」 cmdlet はデータの取得、「set」cmdlet はデータの構築または変更、「format」 cmdlet はデータのフォーマット、「out」 cmdlet は特定の方向への出力のみに使用されます。

PowerShell cmdlet には共通のパラメータがありますが、本書では扱いません。この共通パラメータの詳細を表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
get-help about_commonparameters
```

PowerShell cmdlet は、必須およびオプションのパラメータを持つことができます。必須パラメータがない場合は、入力を促すプロンプトが表示されます。オプションのパラメータが不足している場合は、PowerShell はデフォルトの値を使用します。

オブジェクト パイプライン

Windows PowerShell では、テキストではなく、オブジェクトに基づいた新しい対話型モデルを提供しています。オブジェクトを使用する大きな利点の 1 つは、コマンドのパイプラインが容易になることです。つまり、あるコマンドの出力を別のコマンドに入力として渡すことができることです。

オブジェクトを受け取るコマンドは、変換や操作をせずに、直接プロパティやメソッドを処理することができます。ユーザは、出力にあるデータの位置を計算するのではなく、オブジェクトのプロパティおよびメソッドを名前で参照することができます。)

以下の例では、Get-Scenario コマンドの結果は Get-Hosts コマンドに渡されます。パイプライン演算子(|) が左側のコマンドの結果を右側のコマンドに送り、出力は Format-Table コマンドに送られます。

```
PS> Get-Scenario "File Server*" | Get-Hosts | FT -AUTO

Scenario    Name          Role       Parent State IP          Port
--------    ----          ----       ------ ----- --          ----
File Server 1 192.168.1.152  Master    --         Running   192.168.1.152   25000
File Server 1 192.168.1.153  Replica  192.168.1.152   Running   192.168.1.153   25000
File Server   192.168.1.152  Master --          Stopped   192.168.1.152   25000
File Server   192.168.1.153  Replica  192.168.1.152   Stopped    192.168.1.153   25000
```

Arcserve RHA PowerShell のインストール

Arcserve RHA PowerShell を使用するには、Windows PowerShell と Arcserve RHA スナップインをインストールする必要があります。

Windows PowerShell および Arcserve RHA スナップインの要件およびインストールの詳細については、「*Arcserve RHA インストール ガイド*」を参照してください。

重要: Arcserve RHA PowerShell と接続先の Arcserve RHA コントロール サービスは同じバージョンでなければなりません。

Arcserve RHA PowerShell の実行

Windows PowerShell および Arcserve RHA スナップインをインストールした後、2 つの場所から Arcserve RHA PowerShell を実行できます。

- Arcserve RHA PowerShell ショートカット - このオプションを使用すると、すぐに Arcserve RHA PowerShell スナップインの操作を開始できます。
- Windows PowerShell ショートカット - このオプションを使用する場合、Arcserve RHA PowerShell スナップインを手動で Windows PowerShell に追加する必要があります(以下を参照してください) 。

重要: マスタ、レプリカ、およびコントロール サービスのホストのそれぞれに異なるパスワードを設定している場合、PowerShell のコマンドの実行中にシステム エラーが発生し、操作を実行または完了できない場合があります。この問題を回避するために、すべてのホストで同じ管理者パスワードを使用してください。

Arcserve RHA PowerShell を Arcserve RHA PowerShell ショートカットから実行するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] - [プログラム] - [Arcserve RHA] - [PowerShell] を選択して、Arcserve RHAPowerShell を開きます。

   Arcserve RHA PowerShell を開くと、以下のウィンドウが表示され、すべての Arcserve RHA PowerShell スナップインの一覧が表示されます。

   ここで、Arcserve RHA 操作を管理するコントロール サービスに接続する必要があります。これを実行するには、Connect-XO コマンドを使用します。

Arcserve RHA PowerShell を Windows PowerShell ショートカットから実行するには、以下の手順に従います。

1. [スタート] - [プログラム] - [Windows PowerShell 1.0] - [Windows PowerShell] を選択して、Windows PowerShell を開きます。

   Windows PowerShell ウィンドウが表示されます。

2. 以下のコマンドを入力して、作業ディレクトリを Arcserve RHA PowerShell スナップインの INSTALLDIR に変更します。

   CD 'INSTALLDIR\Powershell Snapin'

   ディレクトリが変わります。

3. 以下のコマンドを入力して、Arcserve RHA PowerShell スナップインをインストールします。

   .\xo.ps1

Arcserve RHA PowerShell スナップインがインストールされ、これらのスナップインを使用して、Arcserve RHA 操作を管理するコントロール サービスへの接続を開始できます。

ヘルプの使用

PowerShell では、複数の方法でヘルプおよび追加の情報を得ることができます。

特定のコマンドのヘルプ

- ヘルプ パラメータ - コマンドに **-?** パラメータを指定すると、そのコマンドは実行されません。代わりに、Windows PowerShell はそのコマンドのヘルプを表示します。構文は以下のとおりです。

  <コマンド名> -?

- コマンドの型と構文を表示するには、次のコマンドを入力します。

  get-command <command_name>

- コマンドごとに詳細なヘルプ ファイルがあります。ヘルプ ファイルを参照するには、以下のコマンドを入力します。

  get-help <コマンド名> -detailed

  コマンド ヘルプ ファイルの詳細ビューにはコマンドの説明および構文、パラメータの説明、およびコマンドの使用例が含まれています。

- コマンドのパラメータのヘルプを表示するには、パラメータのプロンプトの後に「**!?**」を入力します。

  <パラメータ名>: !?

使用できるコマンドの一覧

- 使用できる Windows PowerShell コマンドの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

  get-command

- 使用できる Arcserve RHA PowerShell スナップイン コマンドの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

  get-command | where {$_.DLL -match "XO"} | format-table

- XO コマンドに定義されているすべてのエイリアスの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

  alias xo*

Arcserve RHA PowerShell のコマンドの検証

- Arcserve RHA PowerShell スナップインのインストールを確認するには、以下のコマンドを入力して、Arcserve RHA PowerShell スナップインを探します。

  get-pssnapin

コマンド出力のフォーマット

Windows PowerShell には、以下のような、出力表示を変更できるようにするコマンドがあります。

- Format-List
- Format-Custom
- Format-Table
- Format-Wide

いずれかのコマンド出力のフォーマットを変更するには、パイプライン演算子(|) を使用して、コマンドの出力を Format コマンドに送信します。

たとえば、次のコマンドでは Get-Scenario コマンドの出力を Format-Table コマンドに送信しています。その結果、データは表としてフォーマットされています。

```
PS>get-scenario |Format-table

ID Group     Name          Type Master State   Sync AR

-- -----     ---- ---- ------ -----  ---- --

1123633468 Scenarios File Server 1   FileServer 192.168.1.152 Running File False

1123633497 Scenarios Exchange Server Exchange   192.168.1.152 Running
Block True

1123633852 Scenarios File Server 3  FileServer            Unknown File  False

3848963840 Scenarios File Server     FileServer 192.168.1.152 Stopped File False

3848982942 Scenarios File System 1   FileServer QA99-W2K3-EX8 Running File
False
```

詳細については、以下のコマンドを実行して、Format コマンドのヘルプを参照してください。

```
get-help format-list

get-help format-table

get-help format-wide

get-help format-custom
```

第 2 章: Arcserve RHA PowerShell コマンドの使用

この章では、Arcserve RHA PowerShell コマンドを使用して、レプリケーションおよび HA プロセスを制御、編集、モニタする方法の詳細を説明します。コマンドはアルファベット順に表示され、接続、登録、制御および編集の 4 つのグループに分かれています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

接続コマンドおよび登録コマンド 22
制御コマンド 35
編集コマンド 56
モニタリング コマンド 83
ユーザ管理コマンド 93

接続コマンドおよび登録コマンド

このセクションでは、コントロール サービスに接続する方法、コントロール サービスから切断する方法、および Arcserve RHA 登録のライセンス キーを入力する方法を説明しています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続
- スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続
- Disconnect - XO - 実行中のコントロール サービスからの接続解除
- Get-license - Arcserve RHA ライセンスの表示
- Set-license - Arcserve RHA の登録
- xo-import-credential
- xo-convertto-securefile
- xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換
- Add-Credential - 認証情報をホストに追加します
- Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します
- Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します

Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続

PowerShell を使用して Arcserve RHA シナリオを操作するには、まず Arcserve RHA 操作の制御点の役割を果たすコントロール サービスに接続する必要があります。**Connect-XO** コマンドを使用して、PowerShell を特定のコントロール サービスに接続することができます。

注： Arcserve RHA PowerShell の操作が終了したら、必ず、Disconnect-XO コマンドを使用して、コントロール サービスから接続解除してください。PowerShell ウィンドウを閉じると、PowerShell がコントロール サービスから接続解除されます。

構文

Connect-XO [-Host] <文字列> [-Credentials] <PSCredentials> [[-Protocol] [<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]

パラメータ

Host

コントロール サービスが実行されているマシンの IP アドレスまたはホスト名。

Credentials\PSCredentials

コントロール サービスのドメイン\ユーザ名。これらの認証情報は、コントロール サービスの管理者権限を持つユーザに属する必要があります。認証情報を入力したら、 [**Windows PowerShell 資格情報の要求**] ダイアログ ボックスが表示され、パスワードを入力するように求められます。

注： [**PSCredentials**] ダイアログ ボックスに認証情報を手動で入力しなくても済むようにするには、「スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続」を参照してください。

プロトコル

コントロール サービスに接続するために使用されるプロトコル。**http** または **https** のいずれかを入力します。

Port (オプション)

コントロール サービスに接続するために使用される TCP/IP ポート。**http** の場合、デフォルト値は **8088**、**https** の場合、デフォルト値は **443** です。

例：コントロール サービスへの接続

connect-xo 192.168.1.151 qa88-w3k3\administrator https

結果

[**Windows PowerShell 資格情報の要求**] ダイアログ ボックスが表示され、パスワードを入力するように求められます。入力操作の後、以下のメッセージが表示されます。

接続しています...
192.168.1.151 に接続しました。

スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続

パスワードを暗号化し、それをオブジェクトとして実行することによって、[PSCredentials] ダイアログ ボックスに認証情報を手動で入力する必要がなくなります。

パスワードを暗号化して、オブジェクトとして実行するには、以下の手順に従います。

以下コマンドを入力し、必要な箇所にパスワードを使用して、一度実行します。

read-host -assecurestring | convertfrom-securestring | out-file C:\ securestring.txt <password>

$pass = cat C:\securestring.txt | convertto-securestring

$mycred = new-object -typename System.Management.Automation.PSCredential -argumentlist <domain\user_name>, $pass

Connect -XO [-Host] <文字列> $mycred [[-Protocol][<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]

結果は標準の接続を使用した場合と同じです。

接続中...

<IP Address> 接続しました。

詳細については、PowerShell ドキュメントを参照するか、インターネットを検索してください。

Disconnect - XO - 実行中のコントロールサービスからの接続解除

Arcserve RHA PowerShell の操作を終了したら、実行中のコントロールサービスとの接続を解除する必要があります。**Disconnect-XO** コマンドを使用すれば、PowerShell を実行中のコントロールサービスから接続解除できます。

注： PowerShell ウィンドウを閉じると、PowerShell がコントロールサービスから切断されます。

構文

Disconnect-XO

注：このコマンドにはパラメータがありません。実行中のコントロールサービスから自動的に接続解除されます。

例：コントロールサービスからの接続解除

disconnect-xo

結果：

192.168.1.151 が接続解除されました

Get-License - Arcserve RHA ライセンスの表示

Get-License コマンドを使用して、Arcserve RHA ライセンスの詳細を表示できます。

構文

get-license

例：Arcserve RHA ライセンスの詳細を表示

get-license

結果：

キー:
TVC2LF24FTU7G3WJ2QAFMCLGXA5KLPCCYIXTJTWX2MOZFU5GL7EJ3OYZQN-D7V3G123456

会社名：

ライセンスの有効期限：11 2009

メンテナンスの有効期限：11 2009

アシュアード リカバリノードの数：240

CDP リポジトリノードの数：240

製品リスト：

- アプリケーション サーバ、Windows Cluster Edition、30 インスタンス HA

- ファイル サーバ、Windows Enterprise Edition、130 インスタンス HA

- アプリケーション サーバ、Windows Enterprise Edition、130 インスタンス DR

- ファイル サーバ、Windows Enterprise Edition、30 インスタンス DR

- アプリケーション サーバ、仮想マシン、100 インスタンス DR

- アプリケーション サーバ、仮想マシン、100 インスタンス HA

Set-License - 登録 Arcserve RHA

Set-License コマンドで、ライセンスキーを使用して、Arcserve RHA を登録できます。このコマンドを使用する前に、有効な登録キーを持つ必要があります。

構文

set-license

パラメータ

キー

有効なライセンス キー

例：ライセンス キーを使用した Arcserve RHA の登録

set-license TVC2LF24FTU7G3WJ2QAFMCLGXA5KLPCCYIXTJTWX2MOZFU5GL7EJ3OYZQN-D7V3G123456

結果：

キーは正常に登録されました

xo-import-credential

このコマンドは、指定された XML ファイル内のすべての認証情報レコードを読み取り、Add-Crendential コマンドを使用して、接続されたコントロール サービスに追加します。

構文

xo-import-credential

パラメータ

XML ファイル名を指定します。

入力

なし。xo-import-credential にリンクされるオブジェクトはありません。

xo-convertto-securefile

このコマンドは、CSV ファイルのプレーンテキストを安全な XML ファイルに変換します。

構文

xo-convertto-securefile

パラメータ

ソース ファイル名およびデスティネーションが指定されます。

ソースは以下の形式の CSV ファイルである必要があります。

hostname,	username,	password
host1,	user1,	pwd1
host2,	user2,	pwd2

入力

なし。リンクされるオブジェクトはありません。

xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換

xo-credential コマンドを使用すると、ユーザ名およびパスワードの文字列を安全な認証オブジェクトに変換でき、PSCredential オブジェクトをコマンド引数に取る他のコマンド内で使用することができます。

構文

xo-credential <ユーザ名> <パスワード>

例

xo-credential johnsmith mypword2

Add-Credential - 認証情報をホストに追加します

この Add-Credential コマンドによって、認証情報をホストに追加できます。

構文

Add-Credential [-Credentials] <PSCredential> [-Host] <String> [[-Port] <UInt32>]

パラメータ

認証情報

ホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを作成できます。

Host

認証情報の適用先のホストのホスト名または IP アドレス。

ポート

ホストのポート番号。

デフォルト： 25000.

例：

```
$c = xo-credential "administrator" "Password";
Add-Credential $c "9.182.102.229" 25000
```

Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します

Set-HostUserCredential コマンドを使用して、ホストのユーザ認証情報プロパティを設定できます。

構文

Set-HostUserCredential [-Name] <String> [-Host] <String> [-Credentials] <PSCredential>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

認証情報を設定するホストのホスト名または IP アドレス。

認証情報

特定のホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを設定できます。

例:

```
$c = xo-credential "administrator" "Password";
Set-HostUserCredential -name "scenario 1" -host 9.182.102.229 -credential $c
```

出力:

プロパティは正常に更新されました。

Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します

Set-ScenarioUserCredential コマンドを使用して、シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定できます。

構文

Set-ScenarioUserCredential [-Name] <String> [-Credentials] <PSCredential>

パラメータ

名前

シナリオ名。

認証情報

ホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを作成できます。

例:

$c = xo-credential "administrator" "Password";

Set-ScenarioUserCredential -name "scenario 1" -credential $c

出力:

プロパティは正常に更新されました

制御コマンド

このセクションでは、レプリケーションおよび HA プロセスを制御できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Diff-Scenario - 相違点レポートの生成

Diff-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオの相違点レポートを生成できます。

重要: マスタでデータの更新中に相違点レポートを開始することはお勧めしません。レプリカに適用されていないすべての更新は相違点として表示されるからです。

構文

Diff-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

名前

レポートを生成するシナリオの名前。Get-Scenario コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=バイナリ

F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

注: 相違点レポートを生成後に表示するには、概要ページから [レポート センター] を開いて、必要なレポートを選択します。

例: 相違点レポートの生成

diff-scenario "File Server 1" F 1

結果:

シナリオ File Server 1 に対して相違点レポートを実行しています...
完了しました。

Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート

Export-Scenario コマンドを使用して、シナリオを他の場所にエクスポートして再利用できます。シナリオは XMC ファイルとしてエクスポートされ、エクスポート先の場所を指定できます。

構文

Export-Scenario [-Name] <文字列> [[-File] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

File (オプション)

エクスポートしたファイルの完全パス。パスを指定しない場合、ファイルは現在のディレクトリにエクスポートされ、シナリオ名に .xmc という拡張子が付きます。

例: 指定した場所へのシナリオのエクスポート

export-scenario "File Server 1" C:\Scenarios\Scenario_exp_file_1

結果:

シナリオ File Server 1 が、C:\Scenarios\Scenario_exp_file_1 に正常にエクスポートされました

Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート

Import-Scenario コマンドを使用して、シナリオを XMC ファイルの形式で、指定した場所からインポートできます。シナリオをあるコントロール サービスから別のコントロール サービスへ移動する場合、またはシステムが保持しているシナリオよりも古いシナリオを使用する場合に、このオプションを使用します。

構文

Import-Scenario [-File] <文字列>

パラメータ

ファイル

インポートしたシナリオ ファイルの完全パス。

Notes:

- 同名のシナリオがすでに存在している場合、インポートされたシナリオの名前が変更されます。
- インポートされたシナリオはすべてデフォルトの **Scenarios** グループに保存されます。

例: 指定した場所からマネージャへのシナリオのインポート

import-scenario c:\scenarios

結果:

シナリオ File Server 2 は、c:\scenarios から正常にインポートされました

Mount-Snapshot - スナップショットのマウント

Mount-Snapshot コマンドを使用して、公開したスナップショットをマウントできます。スナップショットをローカルの読み取り専用フォルダとして、未使用のフォルダにマウントしたり、ローカルの読み取り専用ボリュームとして未使用のドライブ文字にマウントしたりすることができます。

構文

Mount-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Index] [<Int32>]] [[-Path] [<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]

パラメータ

名前

スナップショットをマウントするホストの名前です。

Index

Get-Snapshot コマンドによって返されるスナップショットのインデックス番号。

パス

スナップショットの公開先のパス。このパスは、ドライブ文字またはフォルダの完全パスのいずれかで指定できます。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。デフォルト ポートは **25000** です。

例 : スナップショットをローカルの読み取り専用ボリュームとしてマウント

mount-snapshot 192.168.1.153 0 F:

結果 :

スナップショット {745d6ce9-d880-40bf-a0cb-d4f0114bb0f8} は F: としてマウントされています。

Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備

Prepare-Reboot コマンドを使用すると、ホストの再起動や Microsoft クラスタノード間のグループの移動などのメンテナンス手順を実行することができ、プロセス完了後の再同期を実行する必要はありません。

メンテナンス用に準備されるホストは実行中のシナリオに含まれている必要があります。1 回に 1 つのホストで準備が行われますが、このホストを複数のシナリオに加えることができます。これらのシナリオでは、このホストはマスタとレプリカの両方として機能することができます。実行中でないシナリオにホストが含まれている場合、このシナリオに関連した準備は実行されません。

ホストの再起動の準備が完了したことを通知するメッセージを受け取ると、ホストを再起動するか、またはクラスタノード間でグループを切り替えることができます。メンテナンス手順が完了すると、レプリケーションプロセスは再同期を実行することなく自動的に再開します。

注: ホストをメンテナンス用に準備した後、再起動せずにシナリオの実行を継続することにした場合、シナリオを停止して再実行する必要があります。

構文

Prepare-Reboot [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

ホスト名。

例: 再起動のためにレプリカ ホストを準備

Prepare-Reboot QA95-W2K3-EX2

結果:

ホスト QA95-W2K3-EX2 を再起動するための準備をしています

Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復

Recover-Scenario コマンドを使用して、マスタで失われたデータをシナリオに参加するレプリカ ホストから転送することによって、そのデータを回復することができます。これは、レプリカからマスタへという逆方向の同期プロセスを起動することによって実行されます。**Recover-Scenario** コマンドを起動するときに、データを回復する元になるレプリカ ホストを定義し、リカバリプロセス中にマスタ上に存在するがレプリカ上には存在しないデータを削除するかどうかを定義する必要があります。

重要: リカバリを開始するには、レプリケーションを停止する必要があります。

リカバリプロセスが完了したことを確認するには、Get-Events コマンドを使用します。「リカバリプロセスが終了した」ことを通知するメッセージを受け取ったら、Run-Scenario コマンドを使用して、マスタからレプリカへのレプリケーション プロセスを再起動できます。

構文

Recover-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値> [-RemoveMasterFiles] <ブール値> [-RecoveryMode] <文字列> [-RebootAfterRecovery] <ブール値>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

データのリカバリ元となるレプリカ ホスト。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=バイナリ

F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

RemoveMasterFiles

リカバリプロセス中にマスタにのみ存在するファイルを削除するかどうかを決定します。以下のいずれかを入力します。

1 = はい、マスタのみに存在するファイルを削除します。

0 = いいえ、マスタのみに存在するファイルを保持します。

RecoveryMode

リカバリするデータの種類。以下のいずれかを入力します。

A = アプリケーション データ

S = システム状態データ([**システム状態の保護**] オプションが有効の場合のみ)

B = 両方の種類のデータ

デフォルト値は **A** です。

RebootAfterRecovery

リカバリプロセスの完了後にマスタ ホストを再起動するかどうか。以下のいずれかを入力します。

1 = はい、マスタを再起動します。

2 = いいえ、マスタを再起動しません。

例: 損失データの回復

Recover-Scenario "File Server 1" 192.168.1.153 F 1 0 A 2

結果:

アプリケーション データの回復プロセスが開始されました

Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの再開

Resume-IsAliveCheck コマンドにより、指定された実行中の HA シナリオの IsAlive チェックを手動で再開できます。

構文

Resume-IsAliveCheck [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

ターゲット シナリオ名。

例: SQLscenario の IsAlive チェックの再開

Resume-IsAliveCheck SQLscenario

結果:

SQLscenario の定期的な IsAlive チェックを再開します。

Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開

Resume-Scenario コマンドを使用して、一時停止したレプリカ ホスト上のレプリケーション プロセスを再開できます。レプリケーションが再開されると、累積された変更が転送されて、レプリカに適用されるため、データの完全な再同期は不要です。

構文

Resume-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

再開する一時停止したレプリカの名前。

例: 一時停止したレプリカ上でのレプリケーション プロセスの再開

resume-scenario "File Server 1" 192.168.1.153

結果:

シナリオ File Server 1 を以下で再開しています: 192.168.1.153

Run-Scenario - シナリオの開始

Run-Scenario コマンドを使用して、1 つまたは複数のシナリオを開始できます。

構文

Run-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

名前

シナリオ名。Get-Scenario コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=ブロック

F=ファイル

V=ボリューム

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

Notes:

- 操作が正常に完了したかどうかをチェックするには、Get-Scenario コマンドおよび Get-Events コマンドを使用します。
- 複数のシナリオを一度に実行する場合は、Get-Scenario コマンドを使用します。

Get-Scenario |Run-Scenario

例：シナリオの開始

run-scenario "File Server 1" F 1

結果：

シナリオ File Server 1 を開始しています...

Run-Assessment - アセスメント モードでのシナリオの実行

Run-Assessment コマンドを使用して、実際にデータをレプリケートしなくても、レプリケーションに必要な正確な帯域幅使用率と圧縮率ベンチマークを評価できます。このコマンドを実行すると、レプリケーションは行われませんが、統計情報が収集されます。レポートは、アセスメント プロセスが停止すると生成されます。

重要: 評価期間が過ぎたら、必ず Stop-Scenario コマンドを使用して、アセスメント モードで実行されているシナリオを停止してください。

注: アセスメント レポートを生成後に表示するには、概要ページから [レポート センター] を開いて、必要なレポートを選択します。

構文

Run-Assessment [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例: アセスメント モードでのシナリオの実行

run-assessment "File Server 1"

結果:

シナリオ File Server 1 が正常に実行されました

Set-Bookmark - リワインド ブックマークの設定

ブックマークは、リワインド バックする時点をマークするために手動で設定するチェックポイントです。**Set-Bookmark** コマンドを使用して、特定のシナリオにブックマークを設定できます。ブックマークは、過去のイベントに対してではなく、リアルタイムに設定されます。データの不安定要因になる可能性があるアクティビティが発生する直前にブックマークを設定することをお勧めします。

Notes:

- このオプションは、 [レプリカ プロパティ] 一覧で **[リカバリ] - [データのリワインド]** オプションを **[オン]** に設定した場合のみ使用できます。
- 同期処理中はブックマークを設定できません。

構文

Set-Bookmark [-Name] <文字列> [[-Message] <文字列>]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Message (オプション)

ブックマークの名前。デフォルト名には、ブックマーク設定の日付と時刻が含まれます。

注 : ブックマークには、後で認識しやすいようにわかりやすい名前をつけることをお勧めします。

例 : リワインド ブックマークの設定

set-bookmark "File Server 1" Backup1

結果 :

シナリオ File Server 1: リワインド ブックマークが正常に設定されました

Stop-Scenario - シナリオの停止

Stop-Scenario コマンドを使用して、1 つ以上のシナリオを停止できます。

注: 操作が正常に完了したかどうかをチェックするには、Get-Scenario コマンドおよび Get-Events コマンドを使用します。

構文

Stop-Scenario [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

停止するシナリオの名前。Get-Scenario コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

例: シナリオの停止

stop-scenario "File Server 1"

結果:

シナリオ File Server 1 が停止しました

Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの一時停止

Suspend-IsAliveCheck コマンドにより、指定された実行中の HA シナリオの IsAlive チェックを手動で一時停止できます。

構文

Suspend-IsAliveCheck [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

例: SQLscenario の IsAlive チェックを一時停止します。

Suspend-IsAliveCheck SQLscenario

結果:

SQLscenario の定期的な IsAlive チェックを一時停止します。

Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止

Suspend-Scenario コマンドを使用して、一時停止したレプリカへの変更の配信を一時的に停止します。一時停止中、レプリケーションが再開されるまでの間に発生した変更はスプールに蓄積されるので、再同期は必要ありません。

重要: 一時停止中は、Exchange Server、SQL Server、Oracle などのアプリケーションの開始も含め、いかなる形であれデータを変更する作業をレプリカ上で行わないでください。レプリカ上でデータを変更するプログラムを開始する必要がある場合、アシュアード リカバリ オプションを使用することができます。

Notes:

- 同期中にレプリケーションを一時停止することはできません。変更はマスタまたは上位のレプリカのスプール ディレクトリに蓄積されるため、レプリケーションは一時的にのみ停止できます。レプリカが一時停止されている間に発生する変更を保持するスプールに十分な容量があることを確認してください。
- 一時停止を解除するには、Resume-Scenario コマンドを使用します。

構文

Suspend-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

一時停止するレプリカ ホスト。

例: レプリカ上の更新の一時停止

suspend-scenario "File Server 1" 192.168.1.153

結果:

シナリオ File Server 1 は以下で一時停止されました: 192.168.1.153

Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行

Switchover-Scenario コマンドを使用して、所定の HA シナリオのスイッチオーバープロセスを開始できます。マスタとレプリカ間でロールをスイッチバックするには、**Switchover-Scenario** コマンドをもう一度実行します。

構文

Switchover-Scenario [-Name] <文字列> -WaitJournal [<ブール値>] -run_reverse_scenario <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

WaitJournal

ジャーナルの待機。

0: ジャーナルを待機しない。0 を選択する場合は、リバースシナリオを実行できません。
1: ジャーナルを待機する。

Run_reverse_scenario

リバースシナリオを自動的に実行するかどうかを指定します。

値が 1 または True の場合、リバースシナリオを自動的に実行します。

値が 0 または False の場合、リバースシナリオを自動的に実行しません。

例: スイッチオーバーの実行

Switchover-Scenario "SQL Server 1" 1

結果

シナリオ SQL Server 1 は <Hostname> にスイッチオーバーします。

完了しました。

Sync-Scenario - 同期の開始

Sync-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオのマスタおよびレプリカを同期することができます。同期プロセスは、レプリケーションが実行中かどうかにかかわらず、いつでも手動でアクティブにできます。

構文

Sync-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

名前

シナリオ名。Get-Scenario コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=バイナリ

F=ファイル

V=ボリューム

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

例: 同期の開始

sync-scenario "File Server 1" F 1

結果:

以下のシナリオの同期を実行中です: FS 1...

完了しました。

Test-Integrity - アシュアード リカバリの整合性テストの実行

Test-Integrity コマンドを使用して、アシュアード リカバリのレプリカ ホストで自動整合性テストを起動できます。

注:

- **Test Integrity** コマンドを有効化するには、 **[アシュアード リカバリを使用した整合性テスト]** オプションを **[オン]** にしてシナリオを使用する必要があります。
- アシュアード リカバリ オプションは、レプリケーション(Replication) とハイ アベイラビリティ(HA) の両方のソリューションをサポートします。しかし、最も適しているのは HA です。HA の場合は、データのみならず、テストが実行される実際のデータベース サーバがレプリカ サーバに導入されているためです。AR テストをレプリケーション シナリオの一部として使用する場合は、ルート ディレクトリ パスがマスタとレプリカで同じであることを確認する必要があります。さらに、レプリカにデータベース アプリケーションがインストールされていること、また、ファイル サーバをテストする場合にはレプリカでファイルが共有されていることが必要で、それらはマスタおよびレプリカで同一の設定となっていなければなりません。そうでなければ、AR テストの結果は意味がないものになってしまいます。
- テストを開始する前に、シナリオを実行する必要があります。

構文

Test-Integrity [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Mode] <文字列> -WaitJournal [<ブール値>]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

テストするレプリカ ホストの IP アドレスまたはホスト名。

Mode

Test-Integrity を手動または自動モードで実行するかどうかを指定します。手動モードを選択する場合は、「m」、「M」、「manual」、または「Manual」と入力します。デフォルトは自動モードです。

WaitJournal

P2V シナリオ用のジャーナルがすべて適用されると、テストを開始します。

0: ジャーナルを待機しない

1: ジャーナルを待機する

例：アシュアード リカバリの整合性テストの実行

Test-Integrity "Exchange Server 1" 192.168.1.153

結果

アシュアード リカバリを使用した整合性テストの開始：192.168.1.153

完了しました。

アシュアード リカバリを使用した整合性テストの完了：192.168.1.153

Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除

Unmount-Snapshot コマンドを使用して、スナップショット自体を削除することなく、公開されたスナップショットをリリースすることができます。スナップショットは引き続き公開されていますが、マウント ポイントは使用しません。

構文

Unmount-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Index] [<Int32>]] [[-Port] [<文字列>]]

パラメータ

名前

スナップショットを公開するホストの名前です。

Index

Get-Snapshot コマンドによって返されるスナップショットのインデックス番号。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。デフォルト ポートは **25000** です。

例: スナップショットのマウント解除

Unmount-Snapshot {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} 1

結果

スナップショット {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} のマウントが解除されました

編集コマンド

このセクションでは、シナリオとシナリオ グループを編集できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Add-Appliance - フル システム シナリオ用 のアプライアンスの指 定

Add-Appliance コマンドを使 用して、フル システム シナリオ用 のアプライアンスを追加 できます。

構 文

Add-Appliance [-Name] <文 字 列 > [-Host] <文 字 列 > [-Parent] <文 字 列 > [-Type] <文 字 列 > [[-Platform] <文 字 列 >] [[-Credentials] <PSCredentials>] [[-ResourcePool] <文 字 列 >] [[-Storage] <文 字 列 >] [[-Port] <文 字 列 >] [[-SSL] <ブール値 >] [[-Dynamic] <ブール値 >]

パラメータ

名 前

新 規 シナリオの名 前 。

Host

レプリカ ホスト の名 前 。

Parent

親 ホスト 。1:m:n をサポートします。

種 類

プラット フォーム タイプ。

- **E または e** - ESX
- **H または h** - Hyper-V
- **X または x** - Xen
- **V または v** - VCenter
- **Others** - 警 告 メッセージ

Platform

仮 想 プラット フォームの IP。Hyper-V の場 合 は適 用 できません。

Credentials (オプション)

仮 想 プラット フォームの認 証 情 報 。

ResourcePool

リソース プール名 。このフィールド を選 択 しない場 合 は、デフォルト が選 択 されます。

Storage

ストレージ名。このフィールドを設定しない場合は、デフォルトが選択されます。

ポート

仮想プラットフォームのポート番号。このフィールドを設定しない場合は、デフォルトが選択されます。

SSL

SSL 接続のスイッチ。デフォルト値は true です。

Dynamic

「with provision」プロパティのスイッチ。デフォルト値は true です。

例：フル システム シナリオ用のアプライアンスの追加

Add-Appliance -Name FULL -Parent 9.181.130.110 -Host 9.181.130.64 -Type H

結果

レプリカ 9.181.130.64 が正常に追加されました

Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加

Add-dir コマンドを使用して、マスタおよびレプリカのホストにルート ディレクトリを追加できます。マスタとレプリカに同じルート ディレクトリ パスを定義するか、異なる 2 つのパスを入力することができます。レプリカに別のパスを入力しない場合、デフォルトではマスタのパスと同じになります。

構文

Add-Dir [-Name] <文字列> [-MasterPath] <文字列> [[-ReplicaPath] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

MasterPath

マスタのルート ディレクトリの完全パス。

フル システム シナリオでは、ドライブ文字とマウント ポイントの両方を入力します。ドライブ文字を入力する場合、":"、"/"、および "\" は無視できます。

たとえば、"e"、"e:"、"e:\"、"e:/"、"e:\\\\\"、"e:////" は同一です。

注: 以下の点に注意してください。

- マウント ポイントを入力する場合、区切り記号として "\" または "/" を使用します。
- シナリオにルート ディレクトリがない場合、ブート ボリュームおよびシステム ボリュームなどのデフォルト ボリュームも追加されます。
- all を入力すると、すべてのボリュームが追加されます。

ReplicaPath (オプション)

レプリカ上のルート ディレクトリの完全パス。値を入力しない場合、マスタとレプリカに同じパスが使用されます。

注: フル システム シナリオでは、このパラメータは無視されます。

例: マスタとレプリカへの同じルート ディレクトリの追加

add-dir "File Server 1" C:/Tools

結果

ルート ディレクトリ: C:/Tools が正常に追加されました

Add-Group - シナリオ グループの作成

Add-Group コマンドを使用して、新規シナリオ グループを作成できます。

注: シナリオが割り当てられていない場合、空のシナリオ グループは概要ページには表示されません。

構文

Add-Group [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

新規シナリオ グループの名前。

注: 複数のシナリオ グループに同じ名前を使用できないため、一意の名前を入力します。新規グループに既存の名前を使用すると、システムによってその名前が自動的に変更されます。

例: 新規シナリオ グループの作成

add-group "File Server Scenarios"

結果

グループ「File Server Scenarios」が正常に追加されました

Add-Master - シナリオへのマスタ ホストの追加

Add-Master コマンドを使用して、所定のシナリオにマスタ ホストを追加できます。マスタ ホストを定義する際に、そのホスト名を入力する必要があります。さらに、マスタ IP アドレスを入力できますが、このパラメータは必須ではありません。

注:

- IP アドレスをホスト名として入力できます。
- このコマンドは、既存のマスタを変更する場合も使用できます。

構文

Add-Master [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [[-IP] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

新規マスタのホスト名。

IP (オプション)

新規マスタの IP アドレス。IP アドレスが定義されていない場合、システムはデフォルトでは指定されたホスト名を使用して IP アドレスを検索し、最初に検出された IP アドレスを使用します。このため、ホストに複数の IP アドレスがある場合、ここで使用する IP アドレスを入力することをお勧めします。

例: シナリオへのマスタ ホストの追加

add-master "File Server 1" 130.119.185.152

結果

マスタ「130.119.185.152」が正常に追加されました

Add-Replica - シナリオへのレプリカ ホストの追加

Add-Replica コマンドを使用して、所定のシナリオにレプリカ ホストを追加できます。レプリカ ホストを定義する際に、そのホスト名を入力する必要があります。また、オプションで IP アドレスも入力できます。次に、親ホスト名を入力する必要があります。これは、マスタまたは別のレプリカのいずれかです。

注: IP アドレスをホスト名として入力できます。

ACL のセキュリティの委任を使用しているときは、UserName、Password、DomainName の 3 つの追加のパラメータの値を入力する必要があります。

構文

Add-Replica [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [[-IP] [<文字列>]] [-Parent] <文字列> [[-UserName] <文字列>] [[-Password] <文字列>] [[-DomainName] <文字列>]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

新規レプリカのホスト名。

IP (オプション)

新規レプリカの IP アドレス。IP アドレスが定義されていない場合、システムはデフォルトでは指定されたホスト名を使用して IP アドレスを検索し、最初に検出された IP アドレスを使用します。このため、ホストに複数の IP アドレスがある場合、ここで使用する IP アドレスを入力することをお勧めします。

Parent

新規レプリカ ホストの親ホスト。親はマスタまたは上位のレプリカのいずれかになり、そのホスト名または IP アドレスのいずれかを使用できます。

UserName、Password、DomainName(ACL の場合のみ)

新規レプリカ ホストを追加する権限を持つユーザのユーザ名、パスワード、およびドメイン。

例: シナリオへのレプリカ ホストの追加

add-replica "File Server 1" 130.119.185.153 -parent 130.119.185.152

結果

レプリカ「130.119.185.153」が正常に追加されました

Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカホストの追加

Add-Replicas コマンドを使用して、所定のシナリオに複数のレプリカホストを一度に追加できます。複数のレプリカホストを追加するには、それらのホストのホスト名とIPアドレスを含むテキスト ファイルを作成する必要があります。このコマンドを使用する際には、最初にシナリオ名、および追加するすべてのレプリカホストの親ホストを定義する必要があります。次に、新規ホストの詳細を含むファイルの名前とパスを指定します。

構文

Add-Replicas [ScenarioName] <文字列> [ParentHost] <文字列> [FileName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

ParentHost

新規レプリカホストの親ホスト。親はマスタまたは上位のレプリカのいずれかになり、そのホスト名またはIPアドレスのいずれかを使用できます。

FileName

ホスト名とそのIPアドレスを含むテキスト ファイル。このテキストは、次の形式にする必要があります。

#ホスト名 IPアドレス

QA95-W2K3-SQL1 *130.119.185.155

QA95-W2K3-EX2 *130.119.185.153

UserName、Password、DomainName(ACL の場合のみ)

新規レプリカホストを追加する権限を持つユーザのユーザ名、パスワード、およびドメイン。

例: シナリオへの複数のレプリカホストの追加

add-replicas "Exchange Server" QA95-W2K3-EX1 D:\New_Replica_Hosts.txt

結果

130.119.185.151 QA95-W2K3-EX1

130.119.185.152 QA95-W2K3-EX2

2 つのレプリカが追加されました。

Add-Scenario - 新規シナリオの作成

Add-Scenario コマンドを使用して、新規シナリオを作成できます。新規シナリオを作成する際に、以下の項目を定義する必要があります。

- シナリオ名
- このシナリオが割り当てられるシナリオ グループ(オプション)
- 保護するアプリケーションまたはデータベース サーバのタイプ
- データ保護ソリューションのタイプ
- アシュアード リカバリの整合性テスト オプションを有効にするかどうか

新規シナリオは、ホストおよびルート ディレクトリなしで作成されます。これらのパラメータは、後で Add-Master、Add-Replica および Add-Dir コマンドを使用して定義します。

構文

Add-Scenario [-Name] <文字列> [[-Group] [<文字列>]] [[-Application] [<文字列>]] [[-Type] [<文字列>]] [[-AR] [<ブール値>] [[-IntOpt] <文字列> [[-ServerURL] <文字列>]]

パラメータ

名前

新規シナリオの名前。

注: 複数のシナリオに同じ名前を使用できないため、一意の名前を入力します。新規シナリオに既存の名前を使用すると、システムによってその名前が自動的に変更されます。

Group (オプション)

新規シナリオを含むシナリオ グループ名。

注:

- グループ名を入力しないと、新規シナリオはデフォルトの **Scenarios** グループに割り当てられます。
- ここで、新規グループ名を入力して、新規シナリオ グループを作成できます。Add-Group コマンドを使用しても、新規シナリオグループを作成できます。

Application

データがレプリケートされるサーバのタイプは以下のとおりです。

- **EX** - Exchange
- **SQL** - SQL Server
- **ORA** - Oracle

- **IIS** - Internet Information Server
- **FS** - ファイル サーバ
- **P2V** - フル システム

種類

ソリューションのタイプ:

- **DR** - レプリケーション/ディザスタ リカバリ
- **HA** - ハイ アベイラビリティ

AR

レプリカ サーバ上 のデータのリカバリ機 能に関 するアシュアード リカバリ テスト を実 行 するかどうか:

- **0** - いいえ
- **1** - はい

IntOpt

他 の Arcserve 製 品との統 合 :

- **BAB** - Arcserve Backup との統 合
- **D2D** - Arcserve D2D との統 合
- **HBBU** - Arcserve Central Host-Based VM Backup との統 合

例 : 新規シナリオの作 成

add-scenario "File Server 1" "File Server Scenarios" FS DR 0

結果

シナリオ File Server 1 が正 常 に追 加されました

Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除

Remove-Dir コマンドを使用して、マスタおよびレプリカ ホストからルート ディレクトリを削除できます。

注: このコマンドを使用して、レプリカからのみルート ディレクトリを削除することはできません。マスタのルート ディレクトリを削除すると、対応するレプリカのルート ディレクトリも削除されます。

構文

Remove-Dir [-Name] <文字列> [-MasterPath] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

MasterPath

マスタ上のルート ディレクトリ パス。

P2V シナリオでは、ドライブ文字とマウント ポイントの両方を入力します。ドライブ文字を入力する場合、":"、"/"、および "\" は無視できます。

たとえば、"e"、"e:"、"e:\"、"e:/"、"e:\\\\\"、"e:////" は同一です。

注: 以下の点に注意してください。

- マウント ポイントを入力する場合、区切り記号として "\" または "/" を使用します。
- システム ボリュームにドライブ文字やマウント ポイントが存在せず、それらを追加または削除できない場合があります。このドライブ文字またはマウント ポイントは自動的に追加されます。そのようなボリュームは削除しないでください。

例: マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除

remove-dir "File Server 1" C:/Tools

結果:

ルート ディレクトリ: C:/Tools が削除されました

Remove-Group - シナリオ グループの削除

Remove-Group コマンドを使用して、所定のシナリオ グループを削除できます。

注: 空のシナリオ グループのみ削除できます。シナリオを含むグループを削除する場合、最初にシナリオを削除する必要があります。

構文

Remove-Group [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

削除するシナリオ グループの名前。

例: シナリオ グループの削除

remove-group "new group 1"

結果

グループ new group 1 が削除されました

Remove-Replica - シナリオからのレプリカ ホストの削除

Remove-Replica コマンドを使用して、所定のシナリオからレプリカ ホストを削除できます。

構文

Remove-Replica [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Parent] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

削除するレプリカ ホストの名前。

Parent

レプリケーション ツリーから削除するレプリカ ホストの親。マスタまたは上位のレプリカのいずれかになります。

例: シナリオからのレプリカ ホストの削除

remove-replica "FS 1" 130.119.185.153 -parent 130.119.185.152

結果

レプリカ 130.119.185.153 が削除されました

Remove-Scenario - シナリオの削除

Remove-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオを削除できます。削除するシナリオがフル システム シナリオの場合、このコマンドは関連する VM リソースも削除します。

注: 実行中のシナリオは削除できません。

構文

Remove-Scenario [-Name] <文字列> [[-DeleteVM] [<ブール値>]]

パラメータ

名前

削除するシナリオの名前。

Delete_VM [<ブール値>]

P2V シナリオの VM リソースをすべて削除します。

1 - 削除する **(デフォルト)**

0 - 削除しない

例: シナリオの削除

remove-scenario "File Server 2"

結果

シナリオ File Server 2 が削除されました

Rename-Group - シナリオ グループの名前の変更

Rename-Group コマンドを使用して、所定のシナリオ グループの名前を変更できます。

構文

Rename-Group [-Name] <文字列> [-NewName] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ グループの現在の名前。

NewName

シナリオ グループの新しい名前。

注: 複数のシナリオ グループに同じ名前を使用できないため、一意の名前を入力します。シナリオ グループに既存の名前を使用すると、システムがその名前を自動的に変更します。

例: シナリオ グループの名前の変更

rename-group Server "Exchange Server Scenarios"

結果

グループ サーバの名前が変更されました

Rename-Scenario - シナリオ名の変更

Rename-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオの名前を変更できます。

注: 実行中のシナリオの名前は変更できません。名前を変更するには、まずシナリオを停止します。

構文

Rename-Scenario [-Name] <文字列> [-NewName] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオの現在の名前。

New Name

シナリオの新しい名前。

例:

rename-scenario "File Server 1" "File Server"

結果

シナリオ File Server 1 の名前が変更されました

実行中にシナリオを変更するコマンド

シナリオの実行中に、一部のシナリオプロパティを変更できるようになりました。このセクションでは、実行中のシナリオを編集するためのコマンドの構文と例を示します。

- Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-RuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties
- Set-RuntimeChangeableScenarioProperty
- Test-RuntimeChangeableScenarioProperty

Apply-AllPendingRuntmeChangeableScenarioProperties

Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、実行中、変更されたすべてのシナリオにすべての変更を適用できます。

構文

Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

例

いくつかのシナリオのプロパティを変更したと仮定します。それらの変更はすべて保留中です。それらを即座に適用する場合に、このコマンドを使用します。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中のシナリオにすべての変更を適用できます。

構文

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 変更する実行中のシナリオの名前。

例

以下のコマンドは、FileServer という名のシナリオに変更を適用します。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

結果として、プロパティとその値のリストが出力されます。

error_source : engine_verification_error

error_level: Error

host_index: 2

root_dir_index: 0

property_xpath:
Scenario.ReplicationTree.ReplNode.ReplNode.SpecificReplicaProps.
ReplicaScheduledTask.Suspend.SuspendScript.Path

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、すべてのシナリオ用に設定したすべての変更をキャンセルできます。

構文

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中のシナリオに対する任意の変更をキャンセルできます。

構文

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 変更を破棄する実行中のシナリオ名です。

例

FileServer という名の実行中のシナリオに多数の変更を加えた結果、問題が検出された場合は、以下のコマンドを使用してシナリオのすべての値を元に戻します。

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

FileServer という名のシナリオに加えたすべての変更が、元の値にリセットされます。

特定のプロパティのみ元の値に設定する場合は、Set-RuntimeChangeableScenarioProperties して、実行中シナリオの指定したプロパティのみ変更します。変更を破棄した場合 Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties リストのすべてのレコードは削除されることに注意してください。Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties を実行すると、指定したシナリオが実行時に変更されなかったことを警告するメッセージが表示されます。

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドは、実行中に変更されたシナリオをすべてリスト表示します。

構文

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

例

以下のコマンドは、実行中に変更されたすべてのシナリオをリスト表示します。

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

結果

結果としてシナリオ名のリストが出力されます。

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、シナリオの実行中に変更可能なすべてのプロパティをリストできます。

構文

get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

例:

以下のコードは、編集可能なプロパティをすべてリスト表示し、出力をテキスト ファイルにリダイレクトするコマンドを発行します。

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties > d:\1.txt

結果

編集可能なプロパティが、「シナリオ/マスタ/レプリカ/プロパティ名」という形式で表示されます。

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定したシナリオの実行中に編集できるプロパティをすべて検出できます。このコマンドでは、そのシナリオで変更できるプロパティのリストが返されます。I/O リダイレクション コマンドと組み合わせると、出力をテキスト ファイル用にフォーマットします。

構文

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

例:

以下のコマンドでは、「FileServerScenario1」という名のシナリオで編集可能なすべてのプロパティが表示されます。

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties FileServerScenario1

結果

Property: False

Host: 10.0.0.0

Value: False

Index: 111

Category: Replica

Name: SpecificReplicaProps.Suspend.SuspendScript

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中シナリオに対するすべての変更をリスト表示できます。

構文

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

例:

以下の例では、FileServer という名のシナリオで変更されたすべてのプロパティがリストされます。

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

プロパティ、プロパティの元の値、プロパティの新しい値がリスト表示されます。

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty コマンドでは、名前を指定したシナリオの実行中に、指定したプロパティの値を更新できます。

構文

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty [Name] [Index] [Value] [Host]

パラメータ

Name - プロパティを変更する実行中のシナリオ名。

Index - 変更するプロパティのインデックスまたは名前。正しい名前を取得するには、Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties または Get-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドを使用します。インデックス値は内的に生成されます。タイプが同じ 2 つのシナリオでも、同じプロパティのインデックスが異なる場合があるからです。正確なインデックスまたは名前を取得するようにしてください。

Value - 指定したプロパティの新しい設定。

ホスト - (オプション) マスタまたはレプリカのプロパティを変更する場合のみ、ホストを指定する必要があります。一般的なプロパティまたは HA プロパティについては、この値はオプションです。

例:

以下のコマンドは、一時停止スクリプト プロパティの引数を、名前に基づいて更新します。

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty FileServer SpecificReplicaProps.Suspend.SuspendScript 456 -Host 10.0.0.1

結果

プロパティ、プロパティの元の値、プロパティの新しい値を表形式で表示します。

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty コマンドでは、指定したプロパティがシナリオ実行中編集可能かどうかを確認できます。

構文

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty [Name] [Index] [Host]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

Index - テストするプロパティのインデックスまたは名前

Host - オプション

例

以下のコマンドでは、FileServer という名の実行中のシナリオについて、インデックスが 113 のプロパティをテストします。

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty FileServer 113 -host 10.0.0.3

結果

指定したインデックスまたはプロパティ名について TRUE または FALS の値。

モニタリング コマンド

このセクションでは、DR および HA プロセスをモニタできるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示
- Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示
- Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示
- Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示
- Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワーク アダプタの取得
- Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示
- Get-Snapshot - レプリカ ホストの VSS スナップショットを表示
- Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示
- Get-Stats - シナリオの統計情報を表示

Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示

Get-Dirs コマンドを使用して、すべてのルート ディレクトリの一覧を表示できます。

構文

Get-Dirs [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例: 所定のシナリオのルート ディレクトリの一覧表示

get-dirs "File Server 1"

結果

ID : 2721474912

Scenario : File Server 1

Master : 192.168.1.152

Path : C:/Tools

DB : False

Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示

Get-Events コマンドで所定のシナリオのレプリケーション イベントのリストが表示されます。このイベント リストには、情報、警告およびイベントが含まれる場合があります。表示される情報は、イベント ID、イベントの日付と時刻、シナリオ名、イベントの重大度およびイベント メッセージで構成されます。

構文

Get-Events [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

表示するイベントのシナリオ名。

例: 自動サイズ設定形式の表で所定のシナリオの一覧を表示

get-events "File Server 1" | FT -auto

結果

ID Time Scenario Severity Message

-- ---- -------- -------- -------

SM00165 10/28/2008 6:02:52 PM File Server 1 Significant Connected to...

SR00014 10/30/2008 7:17:31 PM File Server 1 Significant Starting...

SR00139 10/30/2008 7:17:35 PM File Server 1 Significant Starting File...

IR00119 10/30/2008 7:18:16 PM File Server 1 Info Root directory...

SR00120 10/30/2008 7:18:16 PM File Server 1 Significant Synchronization...

IM00405 10/30/2008 7:15:06 PM File Server 1 Info Posting...

SR00202 10/30/2008 7:18:21 PM File Server 1 Significant All modifications...

SR00096 11/3/2008 6:47:40 PM File Server 1 Significant Stopping scenario...

Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示

Get-Group コマンドを使用して、所定の名前を持つすべてのシナリオ グループの一覧を表示できます。このリストを表示するには、検索する名前を入力する必要があります。

さらに、このコマンドを使用して、既存のすべてのシナリオ グループの一覧を表示できます。すべてのシナリオ グループの一覧を表示するには、シナリオ名なしでコマンドを入力します。

構文

Get-group [[-GroupName] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ グループの名前。

注: シナリオ グループ名の一部として「*」または「?」のワイルドカードを使用できます。

例: 所定の名前を持つすべてのシナリオ グループの一覧表示

get-group *Server*

結果

File Server Scenarios 2

File Server Scenarios 1

Exchange Server Scenarios

File Server Scenarios

Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示

Get-Hosts コマンドを使用して、所定のシナリオのすべてのホストの一覧を表示できます。

構文

Get-Hosts [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例: 自動サイズ設定形式の表で所定のシナリオのホストの一覧を表示

Get-Hosts "File Server 1" |FT -auto

結果

Scenario Name Role Parent State IP Port

-------- ---- ---- ------ ----- -- ----

File Server 1 192.168.1.152 Master -- Running 192.168.1.152 25000

File Server 1 192.168.1.153 Replica 1192.168.1.152 Running 192.168.1.153 25000

Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワーク アダプタの取得

Get-NetworkAdapters コマンドを使用して、指定されたホストのすべてのネットワーク アダプタを一覧表示できます。

構文

Get-NetworkAdapters [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

フル システム シナリオ内のホスト名。

例: フル システム シナリオの指定されたホストのすべてのネットワーク アダプタをリスト表示

Get-NetworkAdapters FULL 9.181.130.64

結果: すべてのネットワーク アダプタが表示されます。

Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection - Virtual Switch

Arcserve RHA internal for AR

Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示

Get-Scenario コマンドを使用して、所定の名前を持つすべてのシナリオのリストを表示できます。このリストを表示するには、検索する名前を入力します。

さらに、このコマンドを使用して、既存のすべてのシナリオのリストを表示できます。すべてのシナリオのリストを表示するには、シナリオ名なしでコマンドを入力します。

構文

Get-Scenario [[-Name] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

注: シナリオ名の一部として「*」または「?」のワイルドカードを使用できます。

例: 自動サイズ設定形式の表で指定の名前を持つすべてのシナリオの一覧を表示します。

get-scenario File* |FT -auto

結果

ID Group Name Type Master State Sync AR

-- ----- ---- ---- ------ ----- ---- --

1123633852 Scenarios FileServer FileServer Unknown File False

1123633468 Scenarios File Server 1 FileServer 192.168.1.153 Stopped File False

Get-Snapshot - レプリカ ホストの VSS スナップショットを表示

Get-Snapshot コマンドを使用して、所定のレプリカ ホストのすべての VSS スナップショットを表示できます。

構文

Get-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Port] <文字列>]

パラメータ

名前

シナリオに表示されるホストの名前。

Port (オプション)

所定のホストへの接続ポート。デフォルトのポート番号は **25000** です。

例: 自動サイズ設定形式の表で所定のレプリカ ホストのすべての VSS スナップショットを表示

Get-Snapshot 130.119.173.7 |FT -auto

結果

Index Snapshot Created Exposed Mounted Drive Scenario

----- -------- ------- ------- ------- ----- --------

0 {4f2bb053-5f2d} 11/18/2008 4:03:09 PM False Not Mounted C:/ FileServer

1 {bcbdda2b-6165} 11/18/2008 4:06:00 PM False Not Mounted C:/ FileServer

2 {c1f206be-2ad0} 11/18/2008 4:07:17 PM False Not Mounted C:/ FileServer

Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示

Get-State コマンドを使用して、特定のホストに定義されたすべてのシナリオを詳細および状態と共に一覧表示します。

構文

Get-State [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

ホストの名前。

例:

get-state 130.119.185.152

結果

ID : 2505374864
Group : FS Scenarios
Name : FS 1
Type : FileServer
Master : 130.119.185.152
State : Running
Sync : File
AR : False

ID : 2721467841
Group : File Server Scenarios
Name : File Server 1
Type : FileServer
Master : 130.119.185.152
State : Stopped
Sync : File
AR : False

Get-Stats - シナリオの統計情報を表示

Get-Stats コマンドを使用して、シナリオの実行中にホスト別の統計情報を表示できます。

構文

Get-Stats [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例: 所定のシナリオの実行中にレプリケーション統計情報を表示

get-stats "File Server 1"

結果

Scenario : File Server 1

名前 : 192.168.1.152

役割 : マスタ

スプール サイズ : 0

同期ファイル : 345

同期 (MB) : 86

レプリケート (MB) : 0

Scenario : File Server 1

Name : 192.168.1.153

役割 : レプリカ

スプール サイズ : 0

同期ファイル : 345

同期 (MB) : 86

レプリケート (MB) : 0

ユーザ管 理コマンド

このセクションでは、ユーザ グループおよび ACL ベースのコント ロール サービスのユーザをモニタおよび管 理 できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンド について説 明します。

注: ACL コマンドを使 用 するには、特 別 なライセンスが必 要 です。

このセクションには、以 下 のトピックが含 まれます。

- Clean-VMResource – 仮 想 プラット フォーム上 の VM リソースの消 去
- Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネット ワーク アダプタのマップ
- Get-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループ名 の表 示
- Set-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループの変 更
- Get-Users - スーパー ユーザ グループのすべてのユーザの一 覧 表 示
- Get-ScenarioUsers - シナリオに対 する権 限 を持 つすべてのユーザの一 覧 表 示
- Set-ScenarioUser - シナリオに対 する権 限 の、ユーザへの割 り当 て
- Remove-ScenarioUser - シナリオに対 するユーザの権 限 のキャンセル

Clean-VMResource – 仮 想 プラットフォーム上 の VM リソースの消 去

Clean-VMResource コマンドを使 用して、仮 想 プラットフォーム上 の仮 想 マシン リソースを消 去 できます。レプリカ ホストを入 力 すると、レプリカの VM リソースが消 去 されます。Host パラメータを入 力しない場 合 、仮 想 プラットフォームのすべての VM リソースが消 去 されます。

構 文

Clean-VMResource [-Name] <文 字 列 > [-Host] <文 字 列 >

パラメータ

名 前

シナリオ名 。

Host

シナリオ内 のレプリカ ホスト 。

例 : すべてのリソースを消 去

Clean-VMResource FULL 9.181.130.64

結 果

VM リソースは正 常 に削 除 されました。

Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネットワーク アダプタのマップ

Edit-NetworkMapping コマンドを使用して、フル システム シナリオのマスタおよびレプリカの間でネットワーク アダプタをマップできます。

構文

Edit-NetworkMapping [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-SourceAdapter] <文字列> [-TargetAdapter] <文字列> [[IP] <文字列[]>] [[DNS] <文字列[]>] [[gateway] <文字列[]>] [[PrimaryWins] <文字列>] [[SecondaryWins] <文字列>] [[-Type] <文字列>]

パラメータ

名前

シナリオ名。HA および P2V シナリオのみがサポートされています。

Host

ホスト名または IP アドレス。

SourceAdapter

ソース アダプタの名前。

TargetAdapter

ターゲット アダプタの名前。空の値を指定するには Null を使用します。

IP

IP アドレスの配列。区切り記号は「:」を使用します。たとえば、「192.168.1.1:255.255.252.0」のように指定します。255.255.252.0 はサブネット マスクです。

DNS

DNS アドレスの配列。

Gateway

ゲートウェイ アドレスの配列。

PrimaryWins

プライマリ WINS (Windows インターネット ネーム サービス) アドレス。

SecondaryWins

セカンダリ WINS (Windows インターネット ネーム サービス) アドレス。

種類

AR または SW ネットワーク。デフォルトは SW ネットワークです。AR ネットワークを設定するには、「ar」を入力します。

例

Edit-NetworkMapping -Name FULL -Host 9.181.130.61 -SourceAdapter "Microsoft Network Adapter Multiplexor Driver" -TargetAdapter "Arcserve RHA internal for AR" -Type AR -IP 9.181.130.140:255.255.0.0

結 果

ネット ワーク マッピングが正 常に編 集されました。

Get-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループ名 の表 示

Get-SuperUserGroup コマンドを使 用して、接 続されているコント ロール サービスのスーパー ユーザ グループの名 前を表 示することができます。

構文

Get-SuperUserGroup

注 : このコマンドにはパラメータがありません。

例 : スーパー ユーザ グループの名 前の表 示

Get-SuperUserGroup

結果

QA95-W2K3-SQL\\<スーパー グループ ユーザ名 >

Set-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループの変 更

Set-SuperUserGroup コマンドを使 用して、スーパー ユーザ グループを変 更 できま す。

構 文

Set-SuperUserGroup [-GroupName] <文 字 列>

パラメータ

GoupName

新 規 スーパー ユーザ グループの名 前 。

例 : スーパー ユーザ グループの変 更

Set-SuperUserGroup Administrators

結 果

スーパー ユーザ グループが正 常 に設 定されました

Get-Users - スーパー ユーザ グループのすべてのユーザの一 覧 表 示

Get-Users コマンドを使 用して、スーパー ユーザ グループに属しているすべてのユーザを一 覧 表 示 できます。

構 文

get-users

注 : このコマンドにはパラメータがありません。

例 : スーパー ユーザ グループに属しているすべてのユーザの一 覧 表 示

get-users

結 果

QA95-W2K3\Administrator

QA95-W2K3-SQL\User2

QA95-W2K3-SQL\User1

Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示

Get-ScenarioUsers コマンドを使用して、特定のシナリオに対する権限を持つすべてのユーザを一覧表示できます。

構文

get-ScenarioUsers [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

例: 所定のシナリオに対して権限を持つすべてのユーザの一覧表示

Get-ScenarioUsers "File Server"

結果

name

QA95-W2K3-SQL\User2

QA95-W2K3-SQL\User1

Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て

Set-ScenarioUser コマンドを使用して、特定のシナリオに対する権限をユーザに割り当てることができます。

構文

Set-ScenarioUser [-Name] <文字列> [-User] <文字列> [-Right] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

ユーザ

ユーザのフルネーム。

Right

シナリオに対してユーザが行使できる権限の種類。以下のいずれかを入力します。

A = 管理者

C = コントロール

V = 表示のみ

例: 所定のシナリオに対するコントロール権限のユーザへの割り当て

Set-ScenarioUser "File Server" QA95-W2K3-SQL\User2 C

結果

権限がユーザに正常に設定されました

Remove-ScenarioUser - シナリオに対 するユーザの権 限 のキャンセル

Remove-ScenarioUser コマンドを使 用して、特 定 のシナリオに対 するユーザの権 限 をキャンセルできます。

構 文

Remove-ScenarioUser [-Name] <文 字 列> [-User] <文 字 列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名 。

UserName

ユーザの名 前 。

例 : 所 定 のシナリオに対 するユーザの権 限 のキャンセル

Remove-ScenarioUser "File Server" QA95-W2K3-SQL\User2

結 果

ユーザの権 限 が正 常 に削 除されました。

索 引

<MadCap:indexProxy />

索引

A

ACL commands
- Get-ScenarioUsers 100
- Get-SuperUserGroup 97
- Get-Users 99
- Remove-ScenarioUser 102
- Set-ScenarioUser 101
- Set-SuperUserGroup 98

Add-Dir 59

Add-Group 60

Adding
- Master to a scenario 61
- Replica to a scenario 62
- root directory 59
- scenario 64
- scenario group 60

Add-Master 61

Add-Replica 62

Add-Replicas 63

Add-Scenario 64

Assured Recovery testing 53

B

Bookmark setting 47

C

Commands
- cmdlets 14
- controlling 35
- editing 56
- monitoring 83
- output, formatting 20
- using 21

Connecting to a Control Service 23
Connect-XO 23
Control Service
connecting to 23
disconnecting from 26
Controlling commands 35
Creating
scenario 64
scenario group 60

D

Difference Report, generating 36
Diff-Scenario 36
Disconnect-XO 26

E

Events, listing 85
Export-Scenario 37

F

Formatting command output 20

G

Generating a Difference Report 36
Get-Dirs 84
Get-Events 85
Get-Group 86
Get-Hosts 87
Get-License 27
Get-Scenario 89
Get-ScenarioUsers 100

Get-Snapshot 90
Get-State 91
Get-Stats 92
Get-SuperUserGroup 97
Get-Users 99
Group, scenario
adding 60
listing 86
removing 67
renaming 70

H

Host Maintenance, preparing for 40

I

Import-Scenario 38
Installing PowerShell 16

L

License
displaying 27
registration 28
Listing
events 85
groups 86
hosts 87
root directories 84
scenarios 89
snapshots 90

M

Master, adding 61
Monitoring commands 83

Mount-Snapshot 39

O

Object piplines 15

P

Pipelines, object 15
PowerShell
adding 59
cmdlets 14
concepts 13
connecting to a Control Service 23
installing 16
running 17
using commands 21
Prepare-Reboot 40

R

Reboot, preparing a host for 40
Recover-Scenario 41
Registering license 28
Remove-Dir 66
Remove-Group 67
Remove-Replica 68
Remove-Scenario 69
Remove-ScenarioUser 102
Removing
group 67
Replica 68
root ditrctory 66
scenario 69
ScenarioUser 102
Rename-Group 70
Rename-Scenario 71

Renaming
group 70
scenario 71
Replica
adding 62
removing 68
Replication statistics, displaying 92
Resume-Scenario 44
Root directories
adding 59
list all 84
removing 66
Run-Assessment 46
Running
PowerShell 17
scenario in Assessment Mode 46

S

Scenario
adding 64
exporting 37
importing 38
listing 89
recovering 41
renaming 71
resuming 44
running in Assessment Mode 46
stopping 48
suspending 50
synchronizing 52
Set-Bookmark 47
Set-License 28
Set-ScenarioUser 101
Set-SuperUserGoup 98
Snapshot
listing 90
mounting 39
unmounting 55
Statistic per host, displaying 92
Stop-Scenario 48
Suspend-Scenario 50

Switchover-Scenario 51
Sync-Scenario 52

T

Test-Integrity 53

U

unmounting 55
Unmount-Snapshot 55
User Management Commands 93
Using
PowerShell commands 21